



七校便り

宮城県白石高等学校七ヶ宿校
No. 24
平成23年12月15日

絶対ダメ！

11月10日(木)、活性化センターで、平成23年度の薬物乱用防止教室が開かれました。麻薬・覚醒剤などの薬物に対する正しい知識を身に付けることが目的です。講師は、仙南保健所獣疫薬事班の菊地 浩氏です。

薬物は、一度使用してしまったら二度と抜け出せず、一生を破滅させてしまう恐ろしさがあります。また、誘い込もうとする罠が、いたる所にあります。麻薬と分からないように、エスやスピードといった名前で売られていたり、害はないとかダイエットに効果があると行ってだまされたり、様々です。インターネットによる薬物の広がりも問題です。薬物に対する正しい知識を持つことは、特に若者にとって、とても大切です。

生徒の感想

1年 高野 悠希君 (円田中出身)

DVDを見て思ったことは、麻薬は一回使うと止められなくなり、止めたとしても、またやりたくなり、その繰り返しで、いずれ死んでしまうということです。その時に断っておけば、その後の人生を無駄にせずに済んだのに、一度使っただけで、脳が壊れ、もう治らなくなってしまいます。それが薬物の恐ろしさだと思いました。自分が誘われても、絶対にやらないと思いました。

2年 阿部 倫子さん (白石中出身)

私は、薬物乱用は、これまで怖いものだとは思いませんでした。たしかに薬物は一度手を出してしまうと、大変なことになることは知っていましたが、ここまでひどいとは思いませんでした。一度手を出したら、一生治ら

ないとは思いませんでした。病院で頑張って治療すれば治ると思っていました。でも、薬物を使っていなくても、幻覚・幻聴・被害妄想などを、見たり聞いたりするので、本当に治ることはないのだと分かりました。脳にポツカリと穴が空いていたのには驚きました。私は、薬物には絶対手を出さないようにします。

3年 佐藤 安佳莉さん (西根中出身)

薬物乱用の危険性というものは知っていましたが、今日の講演を聞くことで、薬物を乱用するとどれほど恐ろしいかを、更に強く知ることができたと思います。

薬物乱用なんて自分には関係ない、自分の近くで起こるなんてあり得ないと、今までは他人事のようにしか考えていませんでしたが、自分の近くでも、そういうことが起こるかも知れないと思い、そういったことに巻き込まれないように、心を強く持っていきたいと覆いました。

学校評価

平成23年度の学校評価の結果がまとまりました。アンケートにご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。主な結果は次のとおりです。(当てはまると回答した割合)

生徒・保護者対象

- ・学校生活は充実している
(生徒 77%・保護者 94%)
- ・学力を身に付けられるような授業が行われている
(生徒 77%・保護者 100%)
- ・有意義な学校行事がある
(生徒 72%・保護者 78%)

- ・部活動は活発に行われている
(生徒 58%・保護者 78%)
- ・学校は生徒の進路希望を達成する為積極的に活動している (生徒 76%・保護者 100%)
- ・学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている (生徒 77%・保護者 89%)

地域の方々対象

- ・七ヶ宿校は、地域の高等学校として必要な学校である (88%)
- ・七校生はよく挨拶をしてくれる (65%)
- ・七校生は明るく元気である (82%)
- ・七校生は高校生らしい言動を心がけ、実践している (76%)
- ・七校生は部活動に一生懸命で、各種大会等で大きな成果を上げている (76%)

なお、詳細につきましては、本校ホームページ (<http://www.sitika.myswan.ne.jp/>) に掲載されておりますので、ご覧下さい。

各方面からいただいた貴重なご意見を、本校の教育活動に活かして参りますので、今後ともご支援を賜りますようお願いいたします。

蕎麦摘み体験

11月18日(金)の、総合的な学習の時間で、蕎麦摘みの体験学習が行われました。『ゆりの里』近くの蕎麦畑で、生徒達は熱心に蕎麦の実を摘み取りました。



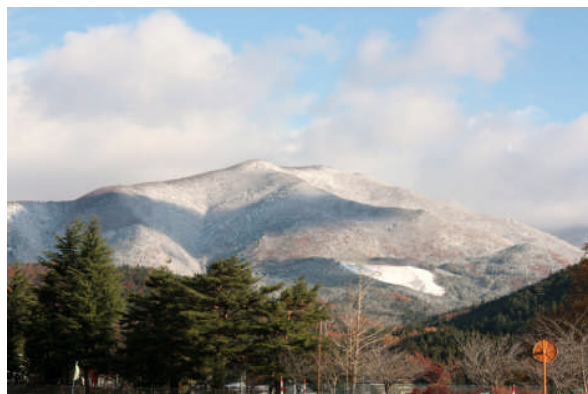
一粒ずつ蕎麦の実を摘む生徒



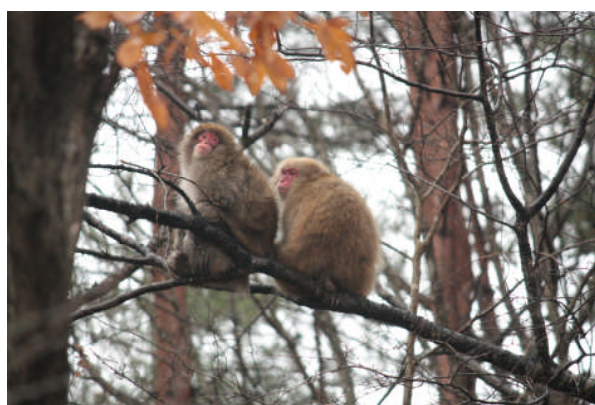
摘み取った蕎麦の実

きっぱりと 冬が来た

冬の訪れを知らせる景色です。



七校から望む不忘山 (11月22日)



七校の裏山に降りて来た猿 (11月25日)

来年在皆様にとって

良い年でありますように